

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2026年7月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2026年7月14日～7月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 118社
- 回収率 59.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況※全産業の7月の状況を見ると業況DIは、前月より3.4ポイント改善の▲25.4なった。

2017年9月以来107ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3カ月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲29.7、当月と比べ4.3ポイント悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2026年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2026年8月～ 2026年10月
業況	▲22.8	▲19.4	▲28.9	▲36.7	▲28.8	▲25.4	▲29.7
売上	▲12.2	▲7.7	▲10.3	▲10.0	▲21.2	▲11.0	▲19.5
採算	▲17.0	▲17.8	▲23.8	▲30.9	▲31.4	▲31.3	▲33.0
仕入単価	▲55.2	▲62.8	▲68.9	▲69.1	▲74.6	▲72.9	▲66.1
販売単価	26.8	27.1	30.4	30.0	35.6	33.1	31.4
従業員	35.0	37.2	30.4	27.5	27.1	28.8	32.2
資金繰り	▲15.4	▲14.7	▲16.3	▲14.2	▲14.4	▲20.4	▲21.2

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2026年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2026年8月～ 2026年10月
建設	▲27.6	▲24.2	▲40.0	▲46.2	▲46.4	▲32.2	▲39.3
製造	▲17.2	▲17.3	▲25.8	▲29.6	▲20.7	▲19.3	▲27.0
卸売	▲27.0	▲21.4	▲14.8	▲22.2	▲9.5	▲16.6	▲20.8
小売	▲25.0	▲44.4	▲33.4	▲45.0	▲40.0	▲36.8	▲26.3
サービス	▲17.4	▲4.0	▲30.8	▲45.0	▲25.0	▲23.8	▲33.3

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・仕入調達不安は好転しているが、価格は高騰し続けている。発注単価との差異が大きい物件もあり、採算は悪い。（総合工事） ・建築費の高止まりや利上げによる投資抑制で、工事の減少が懸念される厳しい状況である。当社最大の課題は人員確保であり、それに伴う賃金増と資材高が経営を圧迫している。受注減とコスト増の二重苦に対し、実体経済を下支える施策を政府に対し切望する。（設備・その他） ・住宅新築案件減少に伴い今後の売上見通しが厳しい状況である。営業力不足が最大の要因であるが、原材料高騰による住宅価格の上昇により、持ち家購入検討者が新築を断念し、中古住宅へシフトするなど業況は逆風にさらされている。（建築業）
製造業	・今年の農作物の収穫が始まろうとしている。近年気候の変動で収穫量に影響が大きいため、品種を変えてみたり、播種時期をずらすなどの対策をしたので、今後の収穫量に期待したい。（食料品） ・新商品の販売が好調。売価改定も控えており前年はクリアできる見通し。（食料品） ・ホルムズ海峡の影響で資材関係の値上がりが厳しい。新規の案件については今までより 2 割アップで対応しているが、その分受注が落ちている。なかなか先行きが見通せない。（家具・木材）
卸売業	・猛暑続きだった昨年とは違い今年はそれほど暑くもなく、熱中症対策商品などの売れ行きが伸び悩んだ。ナフサショック、円安、物価高の影響で安定供給できていないなど、値上がりすぎて消費が追いついていないものもあり困っている。（繊維・衣服等） ・お茶産地の茶農家の減少。抹茶への転換等により茶葉（低価格）の入手が困難になっている。物価高のため売上減少。（食料品） ・中東情勢の影響により一部商品で納期の遅延がおきている。仕入単価の上昇分を今のところは価格転嫁できている。（機械鋼材） ・前年同期に比べ売上は微増。現在仕入先各社から値上げの通知がきており、販売先に対して価格転嫁が難しい状態となっている。（その他）
小売業	・今年の7月はサマーセールを行わなかった。夏の暑さが長く続くため、夏物商品（Tシャツ、半袖、ショーツなど）の需要があり、売上を確保出来た。また利益も取れるが、来店客が少ない状況が続いている。売上が大変厳しい毎日である。（衣服身回品） ・客数と販売点数の前年割れが続いている。今後値上げもあり売上は厳しい。経費面で削減を検討、営業利益を確保するしかない。（食料品） ・販売商品の入荷がわずかだが増えた。仕入原価は上昇で若干販売単価も増。（自動車） ・イラン情勢の混乱が一部残っており、仕入単価の上昇につながっている。様々な経費増加分の価格転嫁が思うように進んでいない。アプリなどの活用により集客策を講じているが効果は今一つ。（その他） ・4月からの注文に対し、潤滑油の供給量の改善により7月単月では良くなっているが、まだ十分な供給量は見込めず業況は良くない。（その他）
サービス業	・6月は好調だったが、7月が気候の影響もあり減少気味。（理美容・クリーニング） ・最繁忙期により高稼働で推移、単価も上がっている。一方で人手不足によりスポットでの派遣依頼等によりコストは上昇。業況は昨年と比較しても横ばい。（ホテル・旅館） ・各原材料の高揚、設備の老朽化による設備投資が多数発生のため、資金繰りが悪化しているが、今年の状況は昨年並みに推移して満室状態が平日続いている業況。（ホテル・旅館） ・売上は堅調に推移している一方、人手不足や労務費・外注費の高騰が経営を圧迫している。価格転嫁は十分に進まず、経験者の採用難が続く中、若手人材の育成と生産性向上が重要な課題となっている。（その他） ・売上は増えているものの物価上昇率、人件費上昇率に追いついておらず厳しい経営環境が続いている。（その他）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI14.3 ポイント改善、採算 DI21.4 ポイント改善、仕入単価 DI3.5 ポイント改善、販売単価 DI7.2 ポイント悪化、資金 DI7.1 ポイント改善、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 14.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事 12 ポイント、設備・その他 9 ポイント改善、建築業 18 ポイント改善となった。コロナ融資の返済の金利上昇。消費税の払込み(赤字決算でも)との声も寄せられている。
製造業	売上 DI37.4 ポイント改善、採算 DI5.0 ポイント改善、仕入単価 DI5.5 ポイント悪化、販売単価 DI0.2 ポイント悪化、資金 DI0.6 ポイント悪化、従業員 DI2.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.4 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 31 ポイント悪化、印刷・出版横ばい、家具・木材 21 ポイント、金属窯業他 10 ポイント改善となった。新商品の販売が好調。売価改定も控えており前年はクリアできる見通しとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI12.5 ポイント悪化、採算 DI11.4 ポイント悪化、仕入単価 DI4.2 ポイント改善、販売単価 DI0.6 ポイント悪化、資金 DI7.8 ポイント悪化、従業員 DI3.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.1 ポイント悪化となった。業種別では、機械鋼材 17 ポイント改善、その他横ばい、繊維・衣服等 33 ポイント、食料品 17 ポイント悪化となった。商品のサプライチェーンの乱れの影響は多少あるものの、年度よりも売上は増加したとの声も寄せられている
小売業	売上 DI12.5 ポイント悪化、採算 DI11.4 ポイント悪化、仕入単価 DI4.2 ポイント改善、販売単価 DI0.6 ポイント悪化、資金 DI7.8 ポイント悪化、従業員 DI3.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.1 ポイント悪化となった。業種別では、機械鋼材 17 ポイント改善、その他横ばい、繊維・衣服等 33 ポイント、食料品 17 ポイント悪化となった。商品のサプライチェーンの乱れの影響は多少あるものの、年度よりも売上は増加したとの声も寄せられている
サービス業	売上 DI 横ばい、採算 DI9.5 ポイント悪化、仕入単価 DI 横ばい、販売単価 DI4.8 ポイント悪化、資金 DI19.1 ポイント悪化、従業員 DI4.8 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 1.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、その他 10 ポイント、整備業 150 ポイント悪化、理美容・クリーニング、運送横ばい、ホテル・旅館 57 ポイント、飲食 3 ポイント改善となった。売上の減少、仕入単価の上昇との声も寄せられている。